



西河 巧

## 一、「地域振興策」について 二、「観光資源の活用」について

### 「地域振興策」について

**問** 9月の一般質問でもお伺いしたが、農産品の加工場の建設計画は具体的に進んで進んでいるのか。

**答** 農産品加工場については、町有施設の活用方策等を検討する中で、具体的な策も今後講じて参りたい。

まず加工に興味を持っておられる方々の意見をまとめながら、住民の皆様と行政が同じ方向を向きながら、能勢町の活性化を進めて行くことが大切なことではないかと感じている。

**問** 物産センターの諸問題について伺う。

**答** 本町の農業振興に資

する中核施設として、大消費地を圏内に有する地域性を鑑み、少量多品目農業を最大限に生かし農業の振興に資するように今後さらに運営に努めてまいりたい。

今後加工場を設置するような気運を作っていく中で、物産センターも第二ステージに向かう時期であると考えている。

**問** 山林資源の活用また害獣対策について能勢町としてどう取り組んでいるのか。

**答** 現在、里山再生事業や有害鳥獣対策事業により、農地周辺の里山環境の整備、あるいは鹿や猪などによる被害の低減に努めている。

### 「観光資源の活用」について

**問** 野間の大げやき周辺の整備について伺う。

**答** 平成16年4月にオープンした「げやき資料館」は10年目を迎えている。

平成24年度の大げやき見学者は、18,727人であり、多くの方々が来られるため、東地域の観光の拠点として、観光協会でパンフレットを配布され、レンタサイクルの貸出も行っている。さらに地元有志の方によって屋台によるオープンカフェも行われている。

町としても地域活性化のため、意見を聞きながら進めていきたい。

## 一般質問

### 新年度予算編成について

**問** 緊縮財政時には、積極的な予算編成が必要だと考えるが、基本方針、重点課題、重点事業に対する山口町長の具体的な意思反映はどうか。

**答** 新年度予算編成においては、第5次総合計画に基づき、まちづくりは人づくり、都市近郊農村資源を活かした賑わい、活力ある暮らしを支える生活空間という3つの政策を具現化することによって、地域活性化につながるまちづくりに取り組んでいく。

**問** 上水道未整備地域への対応

**答** 上水道未整備地域の生活環境、住民構成もかなり変化してきている。生活基盤の重要部分を占める分野でもあり、対応をどう考えるか。

**答** 簡易水道統合整備事業の完了後、給水を希望



大西 則宏

## 新年度予算および 事業展開は！

される場合、その費用は全て受益者負担を基本に置いていくが、現存する簡易水道の方向性や水道事業経営の展望など、質問の事項も念頭に入れて今後検討してまいりたい。

### 「能勢の郷」の有効活用

**問** 「能勢の郷」は、農産物加工場を含む6次産業（生産・加工から販売・サービス提供まで）の拠点、総合公園・総合イベント拠点・滞在型集客拠点、大規模災害発生時緊急避難用地・空路輸送発着拠点として学校跡地活用と連携させた防災計画への位置づけ・ドクターヘリ発着地など、能勢町の活性化・産業育成に活用できると考えるが、いかがか。

**答** 「能勢の郷」については、地元とも連携を図りながら、安易に他の利用目的に転売されることがないよう、大阪府と調整

を行っているところだが有効利用することは必要ではないかと思う。利用するのであれば、既存建物は、6次産業化の中で加工施設として成り立つのではないかと思う。

テニスコートなどフラットな部分を活用しての農業生産物育成、公認グラウンドゴルフ場の活用、太陽光発電設置等も考えられるのではないか。

大阪府が公売を計画している状況において、無償は無理でも、町の財政状況を見きわめ、できる限り安価で譲渡等を受けられることができる方法はないか働きかけていく。

防災計画への位置づけについては、活用できる場所が確保されるのであれば、検討の中身としては入ってこようとは思